

平成 29 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月付着動物調査 速報



●実施状況

平成 29 年 5 月 17 日に付着動物調査を実施した。天候は曇りで、気温 17.8~18.3℃、風速 3.2~4.1 m/s であった。当日は小潮で、満潮 07 時 34 分、干潮 14 時 33 分であった(東京都港湾局のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

2017/5/17	中央防波堤外側(その2)東側		13号地船着場	
調査時間帯	09:30~11:00		11:30~12:30	
水深(m)	5.6		7.0	
天候	曇り		曇り	
気温	17.8		18.3	
風向/風速(m/s)	NE/3.2		NE/4.1	
波浪(m)	0.3		0.2	
水色	緑褐色		茶色	
透明度(m)	1.6		0.8	
観測層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	18.5	16.2	19.0	15.9
塩分	18.1	32.2	24.0	32.2
pH	8.4	7.9	9.1	8.1
DO(mg/L)	9.1	1.5	13.3	2.5
臭気	弱下水臭	弱下水臭	弱下水臭	弱下水臭
備考	下層の DO は 1.5mg/L と低く貧酸素状態であった。		付近では赤潮が発生し、透明度が 0.8m であった。下層の DO は 2.5mg/L と低かった。	

観測層：上層(0m)・下層(海底面-1m)※水温、塩分、pH、DO は計器測定値である。

●調査地点の状況

	中央防波堤外側(その2)東側	13号地船着場
概況写真		
備考	中央防波堤外側埋立地の外側岸壁において調査を実施した。	中央防波堤埋立地へ通じる第二航路海底トンネル排気塔の南にある船着場の、西側岸壁において調査を実施した。

●観察結果の概要

○ 中央防波堤外側（その2）東側

周辺壁面に付着している生物の量は、所々波状の分布がみられたが、調査地点は周辺と同様な様相をみせていた。東京湾で一般的によく見られる、イガイ類やマガキ、イソギンチャク類なども活性の高い状態にあった。

被度（基盤を覆う面積比）が比較的高かった種類は、最も上方ではアラレタマキビ、イワフジツボ、タテジマイソギンチャク、その下方ではムラサキイガイ[※]やマガキ、カタユウレイボヤなどであった。また、移動性ではあるが、よく見られるイボニシや、甲殻類のイソガニ、イッカククモガニ[※]も出現した。魚類ではマゴチやマコガレイが見られた。

海底に向かって、ムラサキイガイ[※]、カタユウレイボヤなどのホヤ類、ヒメホウキムシ、多毛類の棲管（泥分を主体としたもの）の順に優先する状況であり、周辺の壁面に付着動物の欠落した部分は見られなかった。海底はイガイ類が生育し堆積していた。

視界不良のため、広域を見ることは出来なかったが、例年見られていた嫌気性細菌は確認されなかった。

（※外来種）

○ 13号地船着場

付着している生物の種類や量、鉛直的な分布も中央防波堤とほぼ同様の様相を示していた。

被度が比較的高かった種類は、最も上方でイワフジツボやマガキ、海藻の藍藻類やアオサ属のほか、移動性のレイシガイやイボニシ、その下方ではムラサキイガイ[※]、ヒメホウキムシ、カタユウレイボヤであった。また、周辺でイソガニ類やヤドカリ類も確認した。

海底は、中央防波堤同様に生育したイガイ類やその貝殻、多毛類の棲管（泥分を主体としたもの）が岸壁直下に堆積し、沖へ向い深くなるという傾斜をしていた。直下ではイガイ類が生育し堆積しているほか、所々で嫌気性細菌が確認された。また周辺の壁面で大きな付着動物の欠落はみられなかった。

（※外来種）

主な確認種



ムラサキイガイ（外来種）

（撮影：中央防波堤）

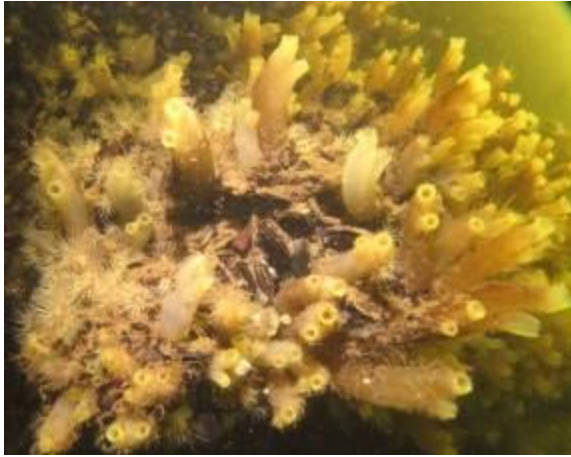
外来の付着性二枚貝で、港湾の防波堤等に高密度に付着する。東京内湾域で代表的な付着生物で、水質浄化能力が高いことが知られている。



タテジマイソギンチャク

（撮影：13号地船着場）

体の表面に縦縞があるためこの名前が付いた。全国の潮間帯に普通に見られるイソギンチャクである。



カタユレイボヤ（撮影：中央防波堤）
半透明の小型のホヤ類で、群体を作って付着する。中央防波堤では、下層（AP-1.1～2.3m）付近に高密度に付着していた。



レイシガイ（撮影：13号地船着場）
潮間帯の岩礁に多く生息し、殻の表面は丸いこぶ状の突起で覆われている。肉食性の貝で、他の貝を捕食する。



イソガニ（撮影：中央防波堤）
石の多い海岸（いわゆる磯場）に普通に見られるカニで、はさみに紫色の斑点、歩脚に横縞があることですぐわかる。



ワレカラ類（撮影：13号地採取個体）
節足動物のヨコエビ目ワレカラ科に属する。東京湾にはトゲワレカラ、クビナガワレカラ、オオワレカラ等が生息し、メバル等の磯魚類の幼魚の重要な餌になっている。



マゴチ（撮影：中央防波堤）
4月の稚魚調査でも確認された。東京内湾域に普通に生息し食用となる。当日は底層の溶存酸素濃度が低かったため、護岸の棚状の箇所に定位していた。



マコガレイ（撮影：中央防波堤・海底）
マゴチ同様東京内湾域に普通に生息し食用となる。マゴチより貧酸素に強いいためか、護岸直下の海底で確認された。